

大分の伝統文化・お獅子さま

お獅子さまとは

かつて大分市内には、不思議な訪問者が太鼓の音と共に各地域を練り歩いていました。「お獅子さま」と呼ばれ、地域の人々に愛されたこの訪問者は、昭和40年半ばまで7月の間に市内各地を訪れ、路傍の人々の頭を噛んだり、特定の家や寺社に立寄って古式ゆかしい獅子舞を披露していました。

お獅子さまは本来、祇園宮（上野の弥栄神社）の祭礼に登場する、神輿の前を清め払う先払いという役割を持っていました。獅子が記録上初めて登場するのは、大友氏の年中行事や儀礼について記された『当家年中作法日記』で、これによると1500年代半ば、祇園会に関わって獅子が大友館を訪れていました。その後島津の侵攻の混乱により、二体あったお獅子さまは敷戸の子子神社と祇園宮の二カ所に分かれて安置されたと伝えられます。

江戸時代にもお獅子さまの巡行は続き、府内藩の記録にもその名前が登場します。



戦前までの巡行地は、戸次、判田、竹中、松岡、明治、鶴崎、三佐、日岡、中心市街地、駄の原、生石、南大分、滝尾、植田、東植田、敷戸など広い範囲に及びます。時代によって行き先は少しずつ変化しましたが、昭和40年代に、徒歩での巡行はなくなりました。

現在は敷戸地域で7月14日に子子神社参拝祭と呼ばれる獅子行事が行われています。記録の上では450年以上にわたって絶えることなく続く伝統行事です。



もう一つの獅子行事・ 植田大明神社

むなかた 宗方にある わさだだいみょうじん じゃ 植田大明神社では、7月11日にお獅子さまのお祭りを分霊した行事が現在も行われています。

獅子頭には文政3年(1820)の記録があり、祭りは江戸時代後期には行われていたようです。神社の中を周回するお獅子さまには、太鼓、傘持ちなどのお供があり、その姿は古い巡行の様子を伝えています。

